

第58回総会挨拶 2026.6.13

皆さま、おはようございます。英文学科17回生の三浦智子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中、第58回同窓会総会にご出席いただきありがとうございます。議案に入ります前に、役員会の動きについてお話させていただきます。

はじめに、大変残念なご報告になりますが、前学長の小野礼子先生が昨年10月12日に帰天なさいました。先生は英文学科9回生のご卒業で、2017年から4年間学長を務められました。その間と同窓会常任顧問として青谷会にお力添えいただきました。いつお会いしても笑顔で駆け寄ってこられて、私たち役員に優しいねぎらいの言葉をかけてくださいました。長い間、青谷会を見守ってくださいましたことをあらためて感謝申し上げます。

次に、今年度の大きな行事であるホームカミングデーについてお話いたします。

開催は10月25日の日曜日です。昨年までは学生さんが企画した大学祭に青谷会が参加する形でしたが、今年は青谷会と4年生が一緒になって準備を進めております。

クラス・ゼミ・クラブなどのミニ同窓会は、すでにたくさんお申し込みをいただいております。手作り品を販売してくださる方や、来場者が何かを体験できるワークショップを開いてくださる方の募集もしております。また、イベントとして、以前大学で講義をされていた落語家の露の紫さんによる落語や、お楽しみ抽選会も予定しています。

在学生・卒業生・ご家族・そして先生方や職員の方も一緒に“ALL海星”で集い、思い出に残る一日を過ごしたいと考えております。当日は役員だけでは手が足りませんので、お手伝いのお申し出もいただけると助かります。総会資料の最後のページにQRコードを載せております。どうぞご参加とご協力をよろしくお願いいたします。

また、閉学を迎える来年3月には大学主催の「感謝のつどい」が開催されます。

多くの同窓生が母校に集まる貴重な機会ですので、青谷会もホームカミング事業のひとつとして協力する計画です。支出につきましては予算案に計上しておりますので後ほどご確認をお願いします。

次に、青谷会基金についてご報告いたします。

青谷会では4年生への奨学金給付と学生生活充実支援を目的として寄付を募集し、基金の口座で管理しております。2023年4月に学生募集停止の発表があり、そのあとの6月の総会で、大学側の資金不足の影響で在学生の行事や活動に制約が生じているので同窓会から支援したいとお話したところ、趣旨をご理解いただき、それ以降3年間で新たに100万円を超えるご寄付を頂戴しました。ご協力誠にありがとうございました。皆さまのご厚意を有効に活用するため、今年9月には基金の残高ほぼ全額を学生支援を目的として大学へ寄付いたします。

会報にゆうちょの振込用紙を同封しておりましたが、もし、これからご寄付をご検討いただける場合は、勝手ながら8月末までにお振込みをお願いいたします。

なお、閉学後の基金の口座ですが、使用しないまま、いわゆる休眠口座の状態でおいておくことが難しい状況です。近年はマネーロンダリングに悪用される恐れがあるため、動きのない口座について金融機関の調査が厳しくなっていますので、閉学後は基金の口座を解約する方向で予定しております。

また、会報アルムネーの発行についても検討を続けております。2年前の総会で、今後も発行を続けていくか、あるいはウェブ化するかについてアンケートを実施しました。結果は、今まで通り紙で読みたいが2割、ウェブで読みたいが2割、どちらでもよいが6割でした。その際、コメント欄に「アルムネーが毎年3月に届くのを楽しみにしています」と書いてくださった方が何名もいらっしゃいまして、会報の大切さを再認識した次第です。しかしながら、閉学後は大学に関する記事が無くなりますので紙面構成が難しくなること、仮に会報のページ数を減らしても編集役員の負担や印刷と郵送にかかる費用は変わらないことを考慮しますと、いずれは今の紙媒体ではなく、スマホやパソコンでご覧いただく形式に切り替えることもやむを得ないかという結論にいたりました。

現在も青谷会のウェブサイトはありますが、会報の内容には個人のお名前やお写真なども含まれますので、一般には公開せず同窓生限定で閲覧できるページを設けるなど、ウェブの特性を活かした方法を探っていく所存です。

以上、この基金と会報の2点につきましてご理解いただけますと幸いです。

さて、今日は100名を超える同窓生にお集りいただいております。今回初めて総会に出席される方や、遠方からお越しの方が例年より多くいらっしゃいます。同窓会事業に関心を寄せていただき大変うれしく思います。毎年申し上げておりますが、閉学後も同窓会は存続いたします。事業内容は今後必要に応じて変化していきますが、同窓生のつながりを大切にするという基本に変わりはありません。同窓会を長く維持していくためには、多くの同窓生が関心を持ち続けて同窓会事業に積極的に関わっていただくことが必須条件だと考えております。

私たち役員は、今年度も同窓会の未来図について精一杯検討してまいります。どうぞ皆さまも引き続きご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。ありがとうございました。